乳腺に発生した悪性リンパ腫の１例

済生会熊本病院 中央検査部病理

鮫島　彩香，杉野　佳澄，木下　史暁

松本　直子，近藤　妙子，松岡　拓也

中川　美弥，田上　圭二，神尾多喜浩

症　例

【患者】50代，女性

【既往歴】高血圧，慢性関節リウマチ

【現病歴】

１ヵ月程前から右乳房の腫脹と熱感を自覚し，近位を受診された．針生検で悪性リンパ腫が疑われ，当院の腫瘍内科を受診された．確定診断のため，生検および捺印細胞診が施行された．

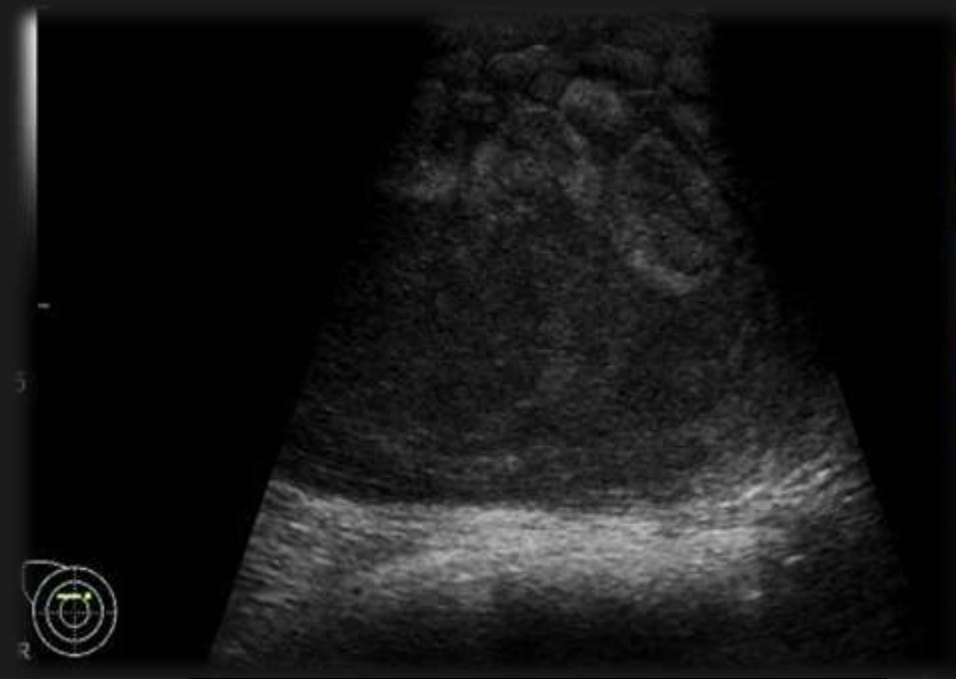
【血液・生化学的検査】

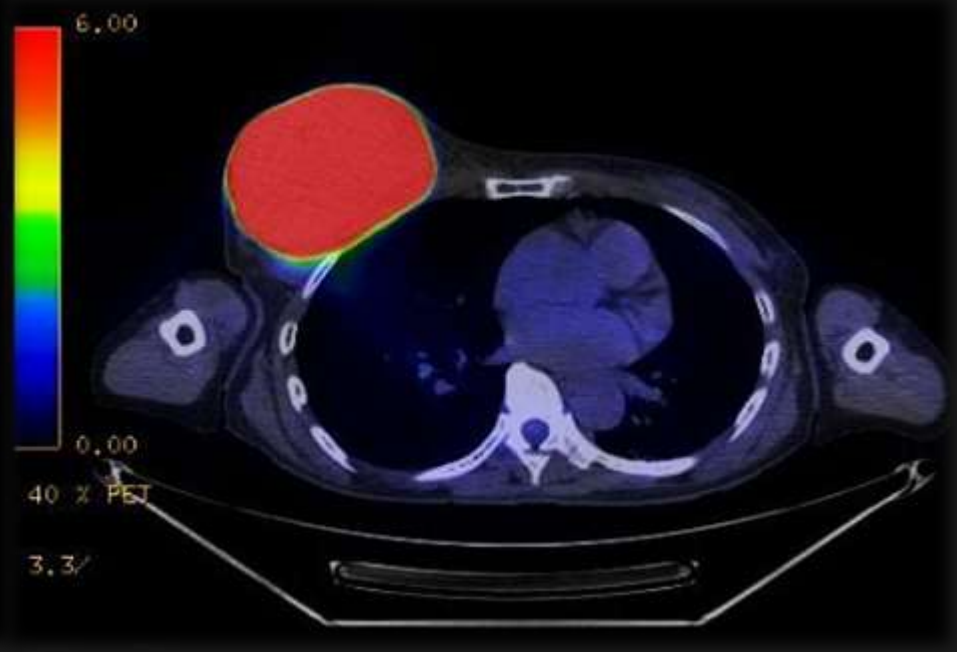
ＷＢＣ：$3.8\times10^{6}\,\mu L$　　ＲＢＣ：$4.41\times10^{6}\,\mu L$

ＰＬＴ：$22.5\times10^{4}/\mu L$　　ＬＤＨ：694Ｕ/L

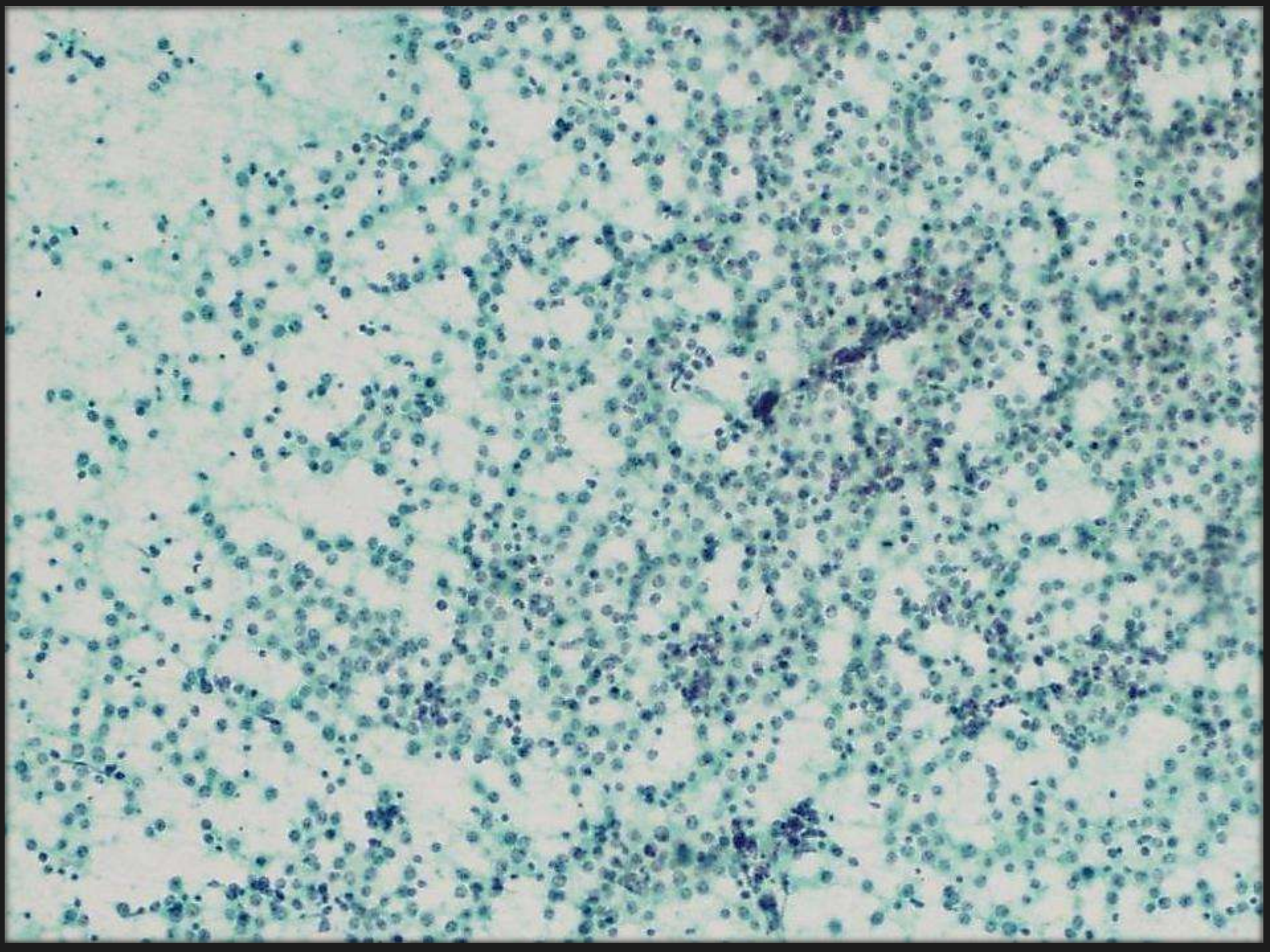
ｓ－ＩＬ2Ｒ：5,660Ｕ/mL

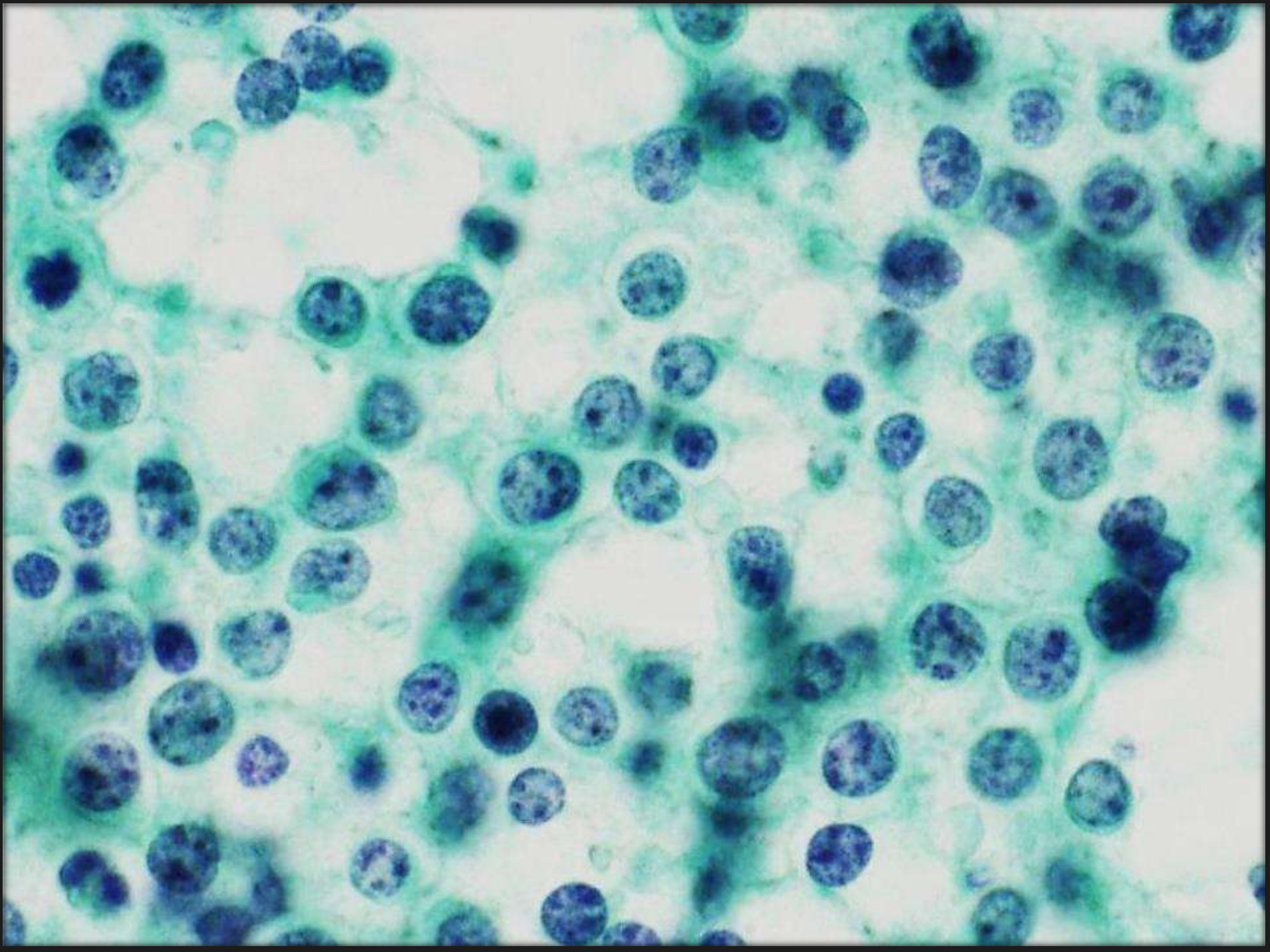
画像検査

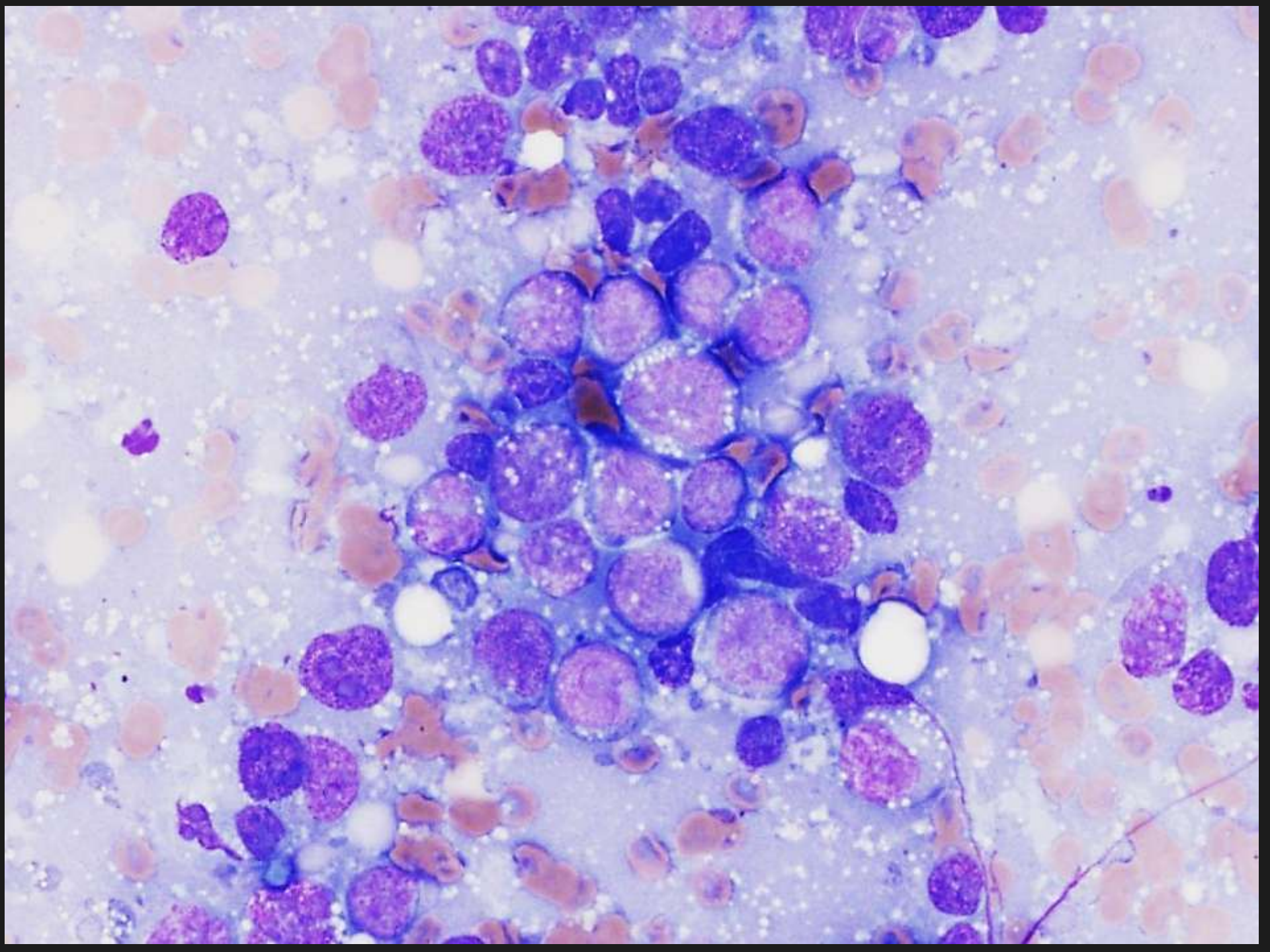


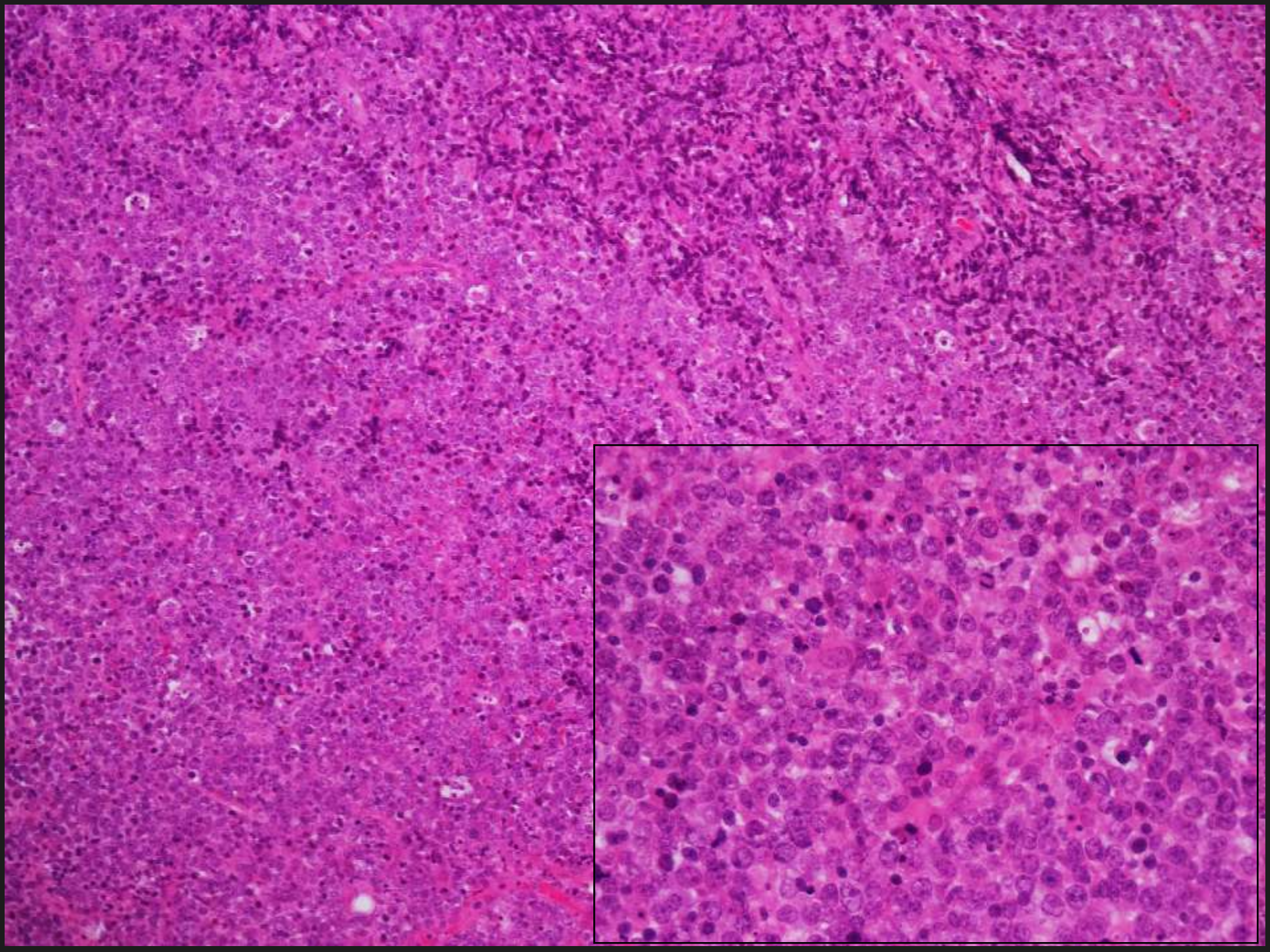


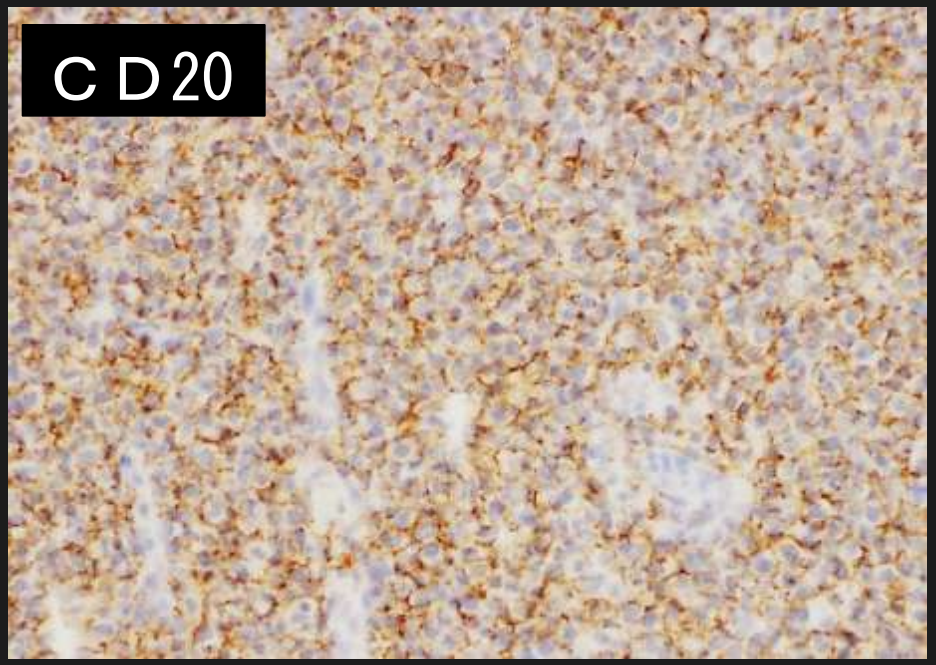


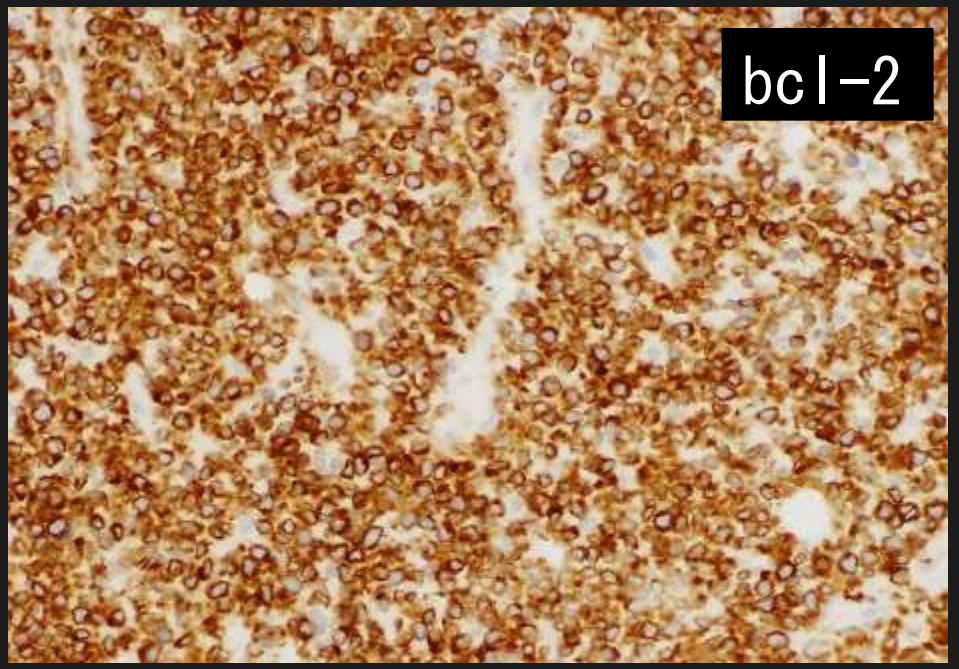


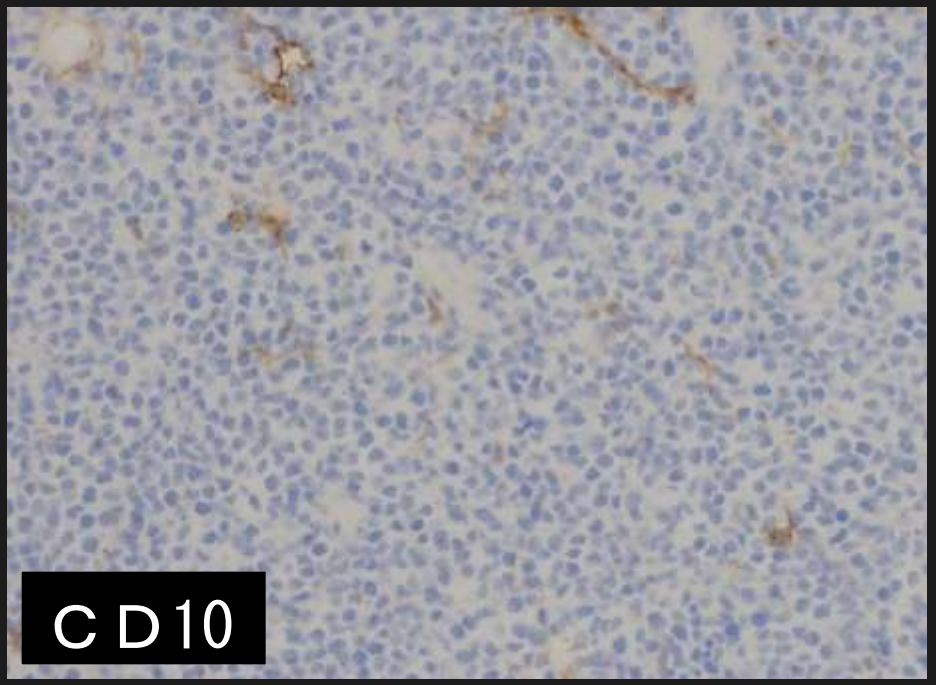




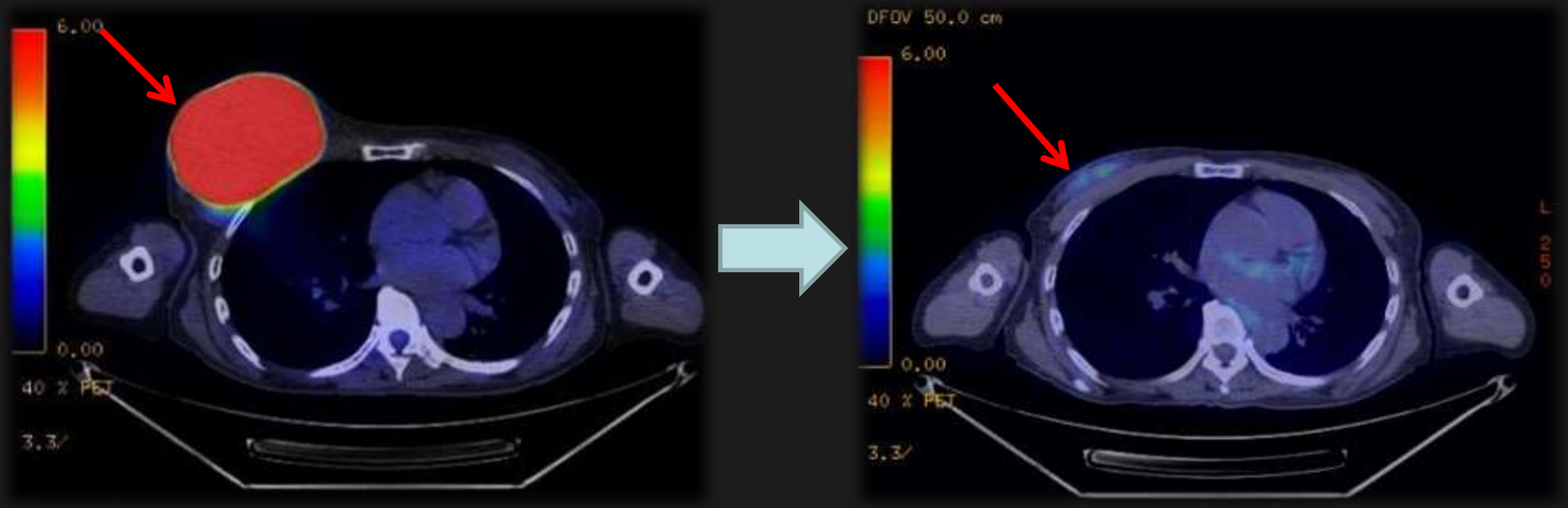



CD20


bcl-2


CD10

化学療法後のＰＥＴ−ＣＴ



Ｒ−ＣＨＯＰ療法後，生検から
３ヵ月後

乳腺原発悪性リンパ腫

- 乳腺原発とするには，1)病理診断が確実であること，2)乳腺組織と悪性リンパ腫が密接に関係すること，3)同側腋窩リンパ節以外に全身性の悪性リンパ腫や乳腺以外の悪性リンパ腫を認めないこと，の条件を満たさなければならないと考えられている.
- 乳腺原発の悪性リンパ腫は，全乳腺悪性腫瘍の0.04～0.5%とまれな腫瘍である.
- 40代と60代にピークがあり，上外側領域に好発し，急速増大する乳房内の限局性結節として発生する.

乳腺原発悪性リンパ腫

- 組織型はびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫が多く，次いでＭＡＬＴリンパ腫が多い.
- 鑑別診断として，浸潤性乳管癌，小葉癌，髄様癌が挙げられる.
- 細胞診上，それらとの鑑別の要所は，細胞の結合性や腫瘍細胞の背景に着目することである.
- 予後不良因子として，1)50歳以下であること，2)腫瘍径が５cm以上であること，3)腋窩リンパ節への転移，4)同時両側発生，などが報告されている.

結　語

- 乳腺に発生した悪性リンパ腫の１例を経験した.
- Papanicolaou染色でも結合性が緩やかであったので，捺印細胞診でも診断可能な症例であった.
- 悪性リンパ腫など，画像診断での術前診断が困難な症例では，生検組織診断あるいは細胞診が有用となる.
- 自験例のようなまれな疾患も念頭に置き，注意深く観察することが重要である.